

まえがき

公共事業の財源が減っている状況では、これまで以上に公共事業の財源の割り振り方が重要となり、立地条件や事業規模によって重点的に整備するものと、そうでないものとを区別し、めりはりのある事業展開が必要とされる。こうした重要度の高い事業に組み込まれた橋梁では、その重要度に見合うだけの高い付加価値が求められることになる。橋梁の付加価値向上には様々な方策があるが、そのなかでも橋梁のデザイン検討は非常に有効な手段であろう。

本部会はビルングトンが提唱した「3E (Economy、Efficiency、Elegance) の統合」に基づいたデザインアのプローチを研究・提案することを目的としてH14年に発足した。本報告書は2代目の部会の研究をまとめたものである。H14年4月～H16年12月に行われた旧部会「橋梁デザインにおける3Eに関する研究部会」では、「桁橋の景観デザイン研究」、「施工技術面から見つめる橋のデザイン」、「型鋼などを利用した3E配慮形のデザイン」、「付属物のデザイン」の4つを研究テーマとして活動を行った。H17年からの新部会「橋梁デザインにおける3Eに関する研究部会(2)」では、旧部会の数人のメンバーが引き続き新部会にも参加する事ができたため、おのずと旧部会の研究テーマの深耕を図ることとなり、「桁橋の景観デザイン研究」、「橋面上に主構造のある橋梁デザインについて」の2つを研究テーマとした活動を行った。部会では毎回勉強会を開催し、コンサルタントとメーカーとがお互いの得意分野を発表しあうことで、互いに知識の交流を深めた。

部会の対外活動としては、土木学会年次講演会において研究成果の発表、デザインの国際会議 IASDR07 では香港で、旧部会で参加した「韓国ソウル市清溪川橋梁コンペ」の活動内容を発表した。また、旧部会同様に国際コンペ(クリフトンクロッシング 2006<イギリス>)に参加し見事3位に入賞した。日本の(少なくとも鋼技研メンバーの)技術者が持つ橋梁デザインのレベルは国際的にも十分通用するものであることを改めて認識する事ができた。

本報告書では、報告書の資料としての価値もさることながら、橋梁デザインに興味のある技術者の方々にとっても、読み物として楽しむことが出来ることを心がけた。読者諸兄の参考になれば幸いである。

橋梁デザインにおける3Eに関する研究部会(2)

顧問 杉山和雄